

# 平成31年度（令和元年度） 学校評価表

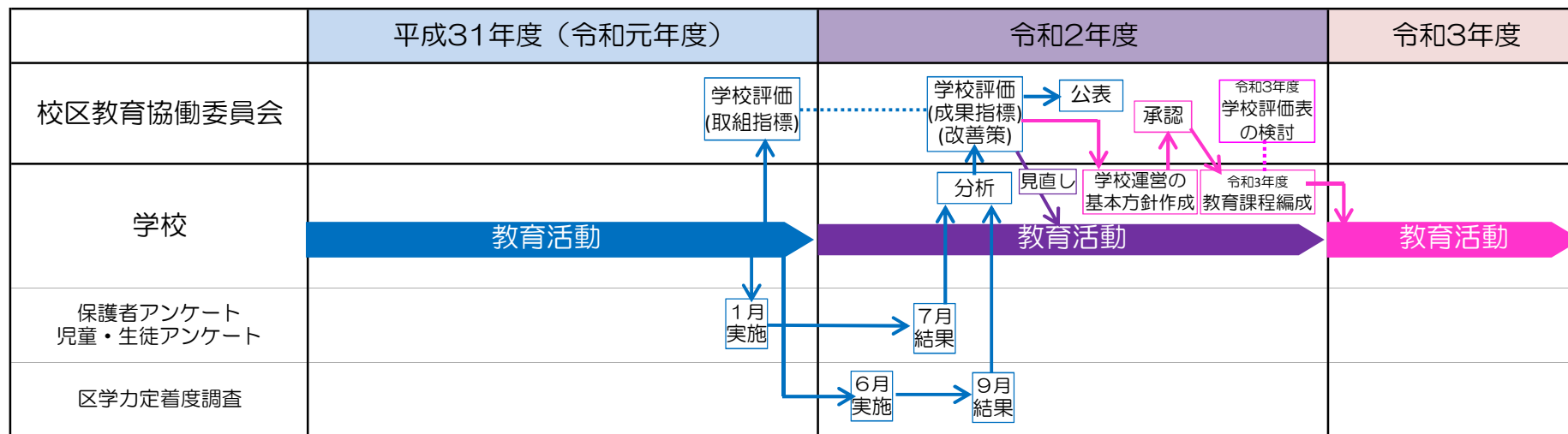
品川区立山中小学校 校長 高水 恵  
 山中小学校校区教育協働委員会 委員長 平沢 茂

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正平成31年3月28日教育長決定要綱第8号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

**学校評価の流れ**（※平成31年度（令和元年度）の学校評価が令和2年度および令和3年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目 1 学力に関すること

重点目標		○子どもたちの「生きる力」を支える確かな学力を身に付けさせる。確かな学力とは、以下の3点である。 ・読み、書き、計算などの基礎的・基本的な知識及び技能 ・知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力 ・主体的に学習に取り組むための学習意欲 ○確かな学力を身に付けさせるために以下の実践を行う。 ①学習規律を確実に身に付けさせるために、山中スタンダードに沿って共通した指導をすべての教員が行う。 ②基礎基本の定着を図るために、帯の時間を活用する。朝学習(25分)では算数や朝読書、昼学習では漢字の読み書きや辞書の言葉調べなどを行う。また、12年生ではミム学習を取り入れる。また、校内研究会やOJT、山中ゼミナールと連動させながら授業改善を図る。さらに品川未来塾を効果的に活用する。 ③全学級、毎日宿題を出し、自主学習(学びノート)の推進を行い、家庭での学習習慣を確立させる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	基本的な学習規律(チャイム着席、あいさつ、発表の仕方「はい、いすを引いて、です」、姿勢、忘れ物防止)が身に付いているか。80%以上の児童が身に付いている。	ほぼ80%の児童が身に付けている。	B	今年度も「前年度できたことを今年度もやろう」の意識で継続して指導してきた。しかし定着には差があり、学年が進むにつれて身につかない傾向がある。一つ一つ繰り返し徹底した指導に当たる。
	山中スタンダードに沿って共通した指導をすべての教員が行う。	指導のスタンスとしてはスタンダード「だから」守るのではないということを理解し、指導に当たる際の言葉にも工夫が必要だと考えている。重点項目の設定など、改善は進んでいる。	B	
	授業の開始時刻には教室で待機し、教師自らが時間を守る。	全ての時間は難しいが、時間は心がけて過ごしている。開始時刻までには迎えに行き、並んで教室に向かうことができていた。	A	
②	各種の学力調査の結果が昨年度よりも向上しているか。または、全国平均値を上回ることができたか。	区の学力調査では、全国平均を上回ることができた。	B	来年度も学習目標の達成のためにICTを効果的に活用し、基礎学力の定着を一層図るとともに、発展的内容の学習に取り組ませていく。
	学習への興味・関心が高まるようにICTを活用したり、教材を工夫したりする。	どの学級でも意識的に活用している。ICTの効果的な活用を心がけて授業作りを行っている。デジタル教科書や実物投影機などを使って授業ができた。	A	
	授業のユニバーサル化を意識しながら、ねらいに沿った学習活動と評価を行う。	校内研究で行ったことをもとに、できるだけやっている。ねらいを明確にした指導を心がけている。	A	
③	課題として出された家庭学習を90%以上の児童がきちんと提出しているか。	ほぼ85%の児童が提出している。	C	学校全体として家庭学習への取組を一本化し、目標の達成を目指したい。
	学年で宿題を統一し、学びノートの推進をする。	内容や進度をそろえている。	B	
	児童の行った家庭学習を丁寧みて指導を行い、適宜返却している。	つまづきに気づき、適時的にミニ補習をすると効果が高い。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		○当たり前のことが当たり前でできる子どもをめざし、基本的な生活習慣やマナーを身に付けさせる。また、規範意識やコミュニケーション能力を高めることを重視する。 ①山中スタンダードの達成度について定期的に教員間で共通理解を図る。 ②学校全体として人間関係づくりを重視した市民科学習の充実を図る。 ③年間を通じたたてわり班活動や山中会社の取組を通して社会性・人間性の育成を図る。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	山中スタンダード「あいさつをする」(相手の目を見て、自分から)「正しい言葉遣いをする」(相手や場を考えて)の項目について80%以上の児童ができていますか。	どちらも75%の児童ができています。	B	自ら進んで挨拶できる児童が増えては来ている。児童の範となるよう教員が率先して挨拶を心掛けていく。
	朝のあいさつ運動を通して、全教職員で指導を行う。また6年生がリードしながらあいさつ当番を行っている。	目的は進んでできるようにさせることなのでほめて強化したい。 あいさつ当番で6年生を中心に活動できた。	B	
	丁寧語や「さん」付けで呼ぶなど、教師自らが正しい言葉遣いの範を示す。	さんや君を付けて呼ぶことができた。	A	
②	生活アンケートでの学校生活や友達関係など肯定的に回答している児童が80%以上いる。	学校生活満足度は約83%の児童が肯定的に回答している。友達関係に対しては約88%が肯定的な回答をしている。	A	これまでの取組がよい結果となって表れてきている。今後様々な場面で自己肯定感を高められるよう指導に当たっていく。
	たてわり班活動や地域の方々との交流など、体験的な活動を通して指導する。	体験的な学習ができていた。	A	
	市民科授業地区公開講座では人間関係形成領域の学習を重点的に行う。	行われた授業はどのクラスもステップ1～3であった。その後、きちんと4・5を繰り返して指導してこそ効果が高まると考えている。	A	
③	係・当番・会社等の活動を80%以上の児童が責任をもって取り組んでいる。	ほぼ80%の児童が責任をもって取り組めた。	B	活動内容や表現方法を工夫することで、より効率的で自主的な活動となるよう支援していく。会社組織は委員会組織に改める。
	係・当番活動がスムーズに行えるよう、システムや掲示物を工夫する。また、会社活動のPDCAサイクルが機能するように取り組む。	活動時間を保障することが課題である。 休み時間の10分よりひねり出した5分の方が児童の意欲は高い。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

平成31年度 学校評価 品川区立山中小学校

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○生涯にわたって運動に親しむ資質や能力、健康の保持増進のための実践力の育成を図りながら体力向上につなげていく。 ①体力テストの結果から学年の実態を把握し、1学級1取組などの実践を通して指導を行う。 ②品川スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズの実践を通して、運動の日常化を図る。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	体力調査の結果が昨年度までの記録や都の平均と比較して上回ることができたか。	令和2年度実施できず成果の達成度を説明できず。	A	テクニカルアドバイザーを活用したり、スポーツトライアルに計画的に取り組んだりしながら、普段の体育授業を充実させ、体力の向上に取り組んでいく。
	体力調査への取組の工夫やテクニカルアドバイザーの効果的な活用を行う。	スポーツ会社の取り組みなど結果に即したものでありよかった。 テクニカルアドバイザーと効果的に指導できた。		
	1学級1取組の実践等を通して全学年が指導を行う。	毎週学級でスポーツトライアルに取り組んだ。		
②	休み時間に体を動かす児童が70%以上いるか。	校庭が狭く、十分な活動場所を確保できていないが、おおむね目標は達成できた。	B	校庭、アリーナの割り当てを決めて活動させることで体を動かす児童を増やしていく。第二校庭の活用を考えていきたい。
	品川スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズの実践を通して運動の日常化を図る。	ワンミニッツエクササイズを毎日の取組にさせるための工夫はまだたくさんできることがあると思う。 毎週学級でスポーツトライアルに取り組んだ。	B	
	週1回の学級遊びなどを企画し、集団で遊ぶ楽しさを味わわせる。	集団遊びを係活動としてさせるなど、奨励する学級は多い。 教員も一緒になって遊ぶことが少ない。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○いじめは重大な人権侵害であり、決して許されることではないことをすべての教育活動を通して、意図的・計画的に指導を行う。 ①「いじめた人が100%悪い」という学校の方針を全教職員が指導する。 ②早期発見・早期対応、早期解決に向けて組織的に対応する。 ③いじめが起こりづらい学校風土を日頃からつくる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	いじめは重大な人権侵害であり、「いじめた人が100%悪い」ということを児童が理解しているか。	校長の講話や担任から児童に伝え続けている。ふれあい月間や人権週間などの取り組みを通じて、定期的に未然防止の指導している。	A	今後も継続して取り組んでいく。
	全校朝礼や朝の会、帰りの会など定期的にいじめに関する話題について教員が話をする。	全ての学級で実践できている。	A	
②	早期発見・早期対応、早期解決に向けて組織的に対応し100%解決することができたか。	認知したいじめの可能性のある事例について、いじめ対策委員会を組織して対応し解決した。	A	来年度も早期発見、早期対応、早期解決に向け、児童を注意深く見守り、組織的に対応していく。
	生活アンケートで把握した情報を基に対応する。特にいじめにつながる事案については報告・連絡・相談を行い、複数で対応する。	いじめにつながる事案の対応は共有できている。	A	
	保護者や児童からいじめにつながる相談を受けた時には、被害者の気持ちに寄り添った対応を行い、組織で対応する。	相談には「解決させるためしっかり対応する」と伝えている。学年だけの判断で不適切な対応をしないよう心掛けている。	A	
③	いじめが起こりづらい学校風土づくりを日頃から心掛けているか。	各学級で互いに認め合う機会を意図的に設けている。	A	学級で行った方法で工夫されたものがあれば共有できる機会を設け、各学級での取組をさらに進めていく。
	いじめ防止推進デー(土曜登校日)では、人を思いやることの大切さや個性についてなど人権にかかわる話をすべての学級で行う。	全ての学級で実践できている。	A	
	児童の日常の様子を観察し、いじめにつながる事柄(わざとぶつかる、避ける、机を離す、〇〇菌、タッチごっこ等)については、その時、その場で指導する。内容によっては保護者に伝える。	全ての学級で実践できている。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		○「地域を愛する学校」として特色ある教育活動を展開する。 ①保護者・地域と連携し子どもたちの豊かな学びを推進する。 ②文化の香る校風づくり(プロに学ぶ、表現活動の充実)を推進する。 ③オリンピック・パラリンピック教育を通して5つの心と態度(ボランティアマインド、障害者理解、スポーツへの親しみ、和の心、豊かな国際感覚)を身に付けさせる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	PTA、いきいき広場、エコクラブ、まちづくり大井、緑化隊などと連携した教育活動を展開することで体験的な学びが実現できているか。	各団体の皆さんの協力のもと、児童は体験的な活動にたくさん参加することができた。	A	来年度も計画的に教育活動を行い、体験的な活動をさせていく。
	学年活動、生け花教室、茶道教室、屋上菜園や学級園の活用、バケツ稲や品川かぶの栽培などの活動を行う。	生け花教室や茶道教室では地域の方々の経験を生かして子どもたちに日本の文化を体験させていただいた。同じく、交流は頻繁に行っていると感じる。	A	
②	劇団四季、アトレ大井町などと連携を深めることで児童の表現活動に生かされているか。	劇団四季の鑑賞は実施できなかった。アトレ展は計画通りに実施することができ、児童の表現活動に十分生かすことができた。	A	地域との連携を深める中で児童の表現活動がより一層充実するよう教育計画の中に位置づけ、活発な活動としていく。
	劇団四季鑑賞、美しい日本語教室、アトレ展、大井どんたく祭りに参加することで、行事(運動会・学芸会・展覧会・音楽会等)や課外活動(合唱団)に生かす。	アトレ展では図工で作った作品を地域の方々に見てもらうことで表現方法を意識して取り組むことができた。アトレ展のポスターを展覧会会場までの階段に掲示して連携をはかることができた。	A	
③	オリンピック・パラリンピック教育を通して5つの心と態度について理解し、実生活に生かそうという気持ちになったか。	特に、車いすバスケットボールの講演を通して、障害のある方への理解が深まり、「みんな友達」という意識が芽生え、実生活に生かそうという気持ちが育った。	A	来年度も都や区、企業との連携を図りながら、5つの心と態度についての理解を深めるとともに、より実践的な取り組みを考えさせいく。会社活動は、委員会活動に改める。
	都や区の施作を活用し、様々な授業を展開する。(バイオガス、ベップトーク、命の授業、都や区の教材活用)	4年生は「おもてなし活動」を学び、自分が誰かのために動くことの大切さを学んだ。ブラインドサッカーの体験をし、視覚に障害がある人の気持ちを体験することができた。バイオガスの授業ができた。	A	
	山中会社を活用した取組や運動会などの行事を通して、児童自らが主体的に関われるようにする。	学級での係活動やたてわりリフレンド集会では、子ども自ら考え工夫する姿が見られ、主体的に取り組む姿が見られた。目的意識をもたせると主体的な活動に結びつくと思う。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成